

# 横浜市インフルエンザ流行情報 14号

横浜市健康福祉局健康安全課 / 横浜市衛生研究所

## 《トピックス》

流行注意報が発令されています。

### 【概況】

2020年第2週(1月6日～12日)の定点<sup>※1</sup>あたりの患者報告数は、横浜市全体で **13.73** でした。(詳細は「市内流行状況」を参照)

年齢別では、10歳未満の報告が全体の41.7%、15歳未満の報告が全体の55.3%を占めています。学級閉鎖等は、冬休みのため第1週、第2週の報告はありませんでした。

また、昨シーズンと比べて、**入院例や重症例の報告が多くなっています。**

今シーズンの第2週までの市内の迅速診断キットの結果は、累計で **A型 98.8%、B型 1.2%**、A・B型ともに陽性0.1%と、A型が多く検出されています。なお、全国のウイルス分離・検出状況<sup>※3</sup>では、AH1pdmが多く検出されており、横浜市での検出状況も同様の状況です。

また、保育園・幼稚園や高齢者施設等での集団発生も報告されています。各施設での持ち込み防止や感染拡大防止対策を徹底しましょう。

今後、インフルエンザの本格的な流行が予想されるため、正しい手洗い<sup>※4</sup>、予防接種等による予防や、早期受診などの対策<sup>※5</sup>が重要です。

※1 定点とは、定期的にインフルエンザ患者発生状況を報告していただいている医療機関(市内153か所)のことで、そこから報告された患者数の平均値が定点あたりの患者報告数です。

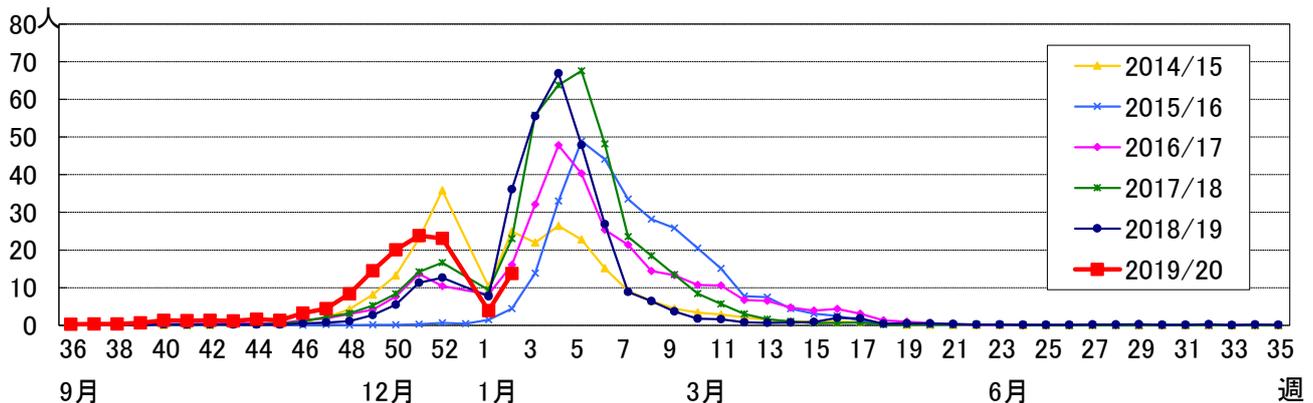
※2 追加報告があったため、以前お知らせした情報から報告数が更新されています。

※3 [インフルエンザウイルス分離・検出速報\(国立感染症研究所\)](#)

※4 [横浜市保健所ホームページ](#)(「正しい手洗い方法」および、掲示用ポスター「石けんで『手』を洗おう」をトップページに掲載しておりますので、是非ご活用ください)

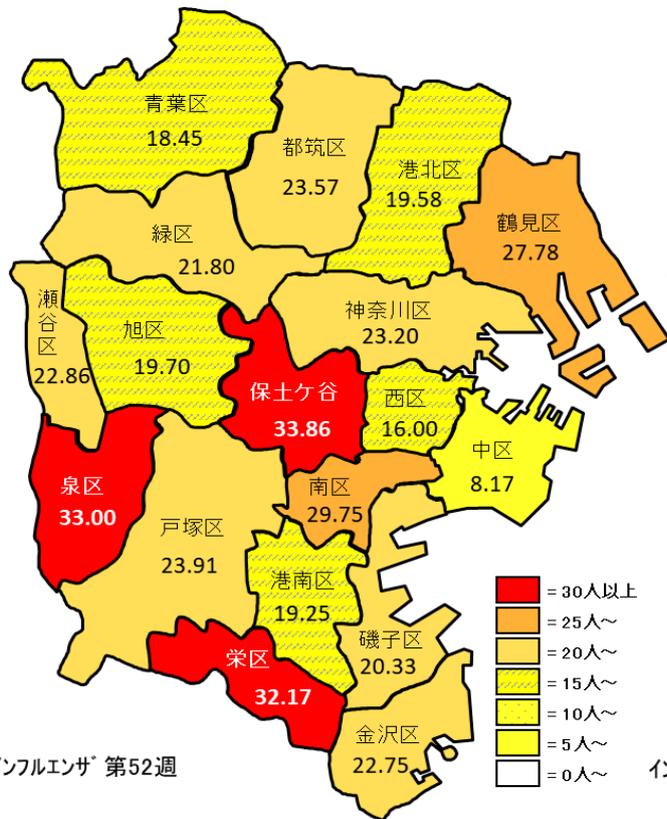
※5 [市民向けインフルエンザ予防チラシ\(横浜市\)](#)

- 1 **市内流行状況**:市全体の定点あたりの患者報告数は、第49週にて14.51<sup>※2</sup>となり、流行注意報の発令基準(10.00)を超えました。第1週は定点あたり3.91でしたが、年末年始にて定点医療機関が休診中のことが多いため、流行の実態を正確に反映していないことが考えられます。第2週は13.73となっており、今後、増加が予想されます。

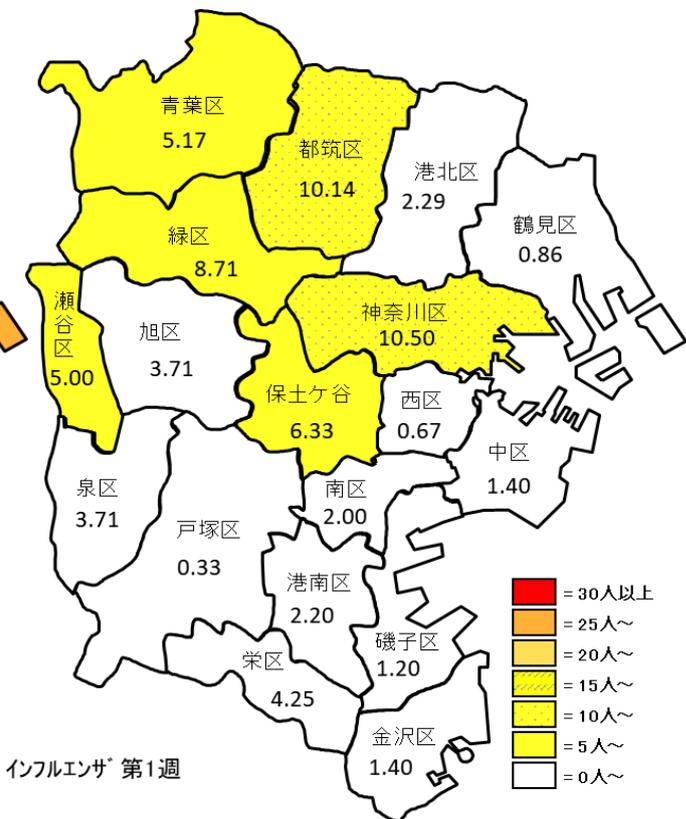


## 2 地図で表した直近3週間の区別流行状況(塗り分けの数字は定点あたり報告数)

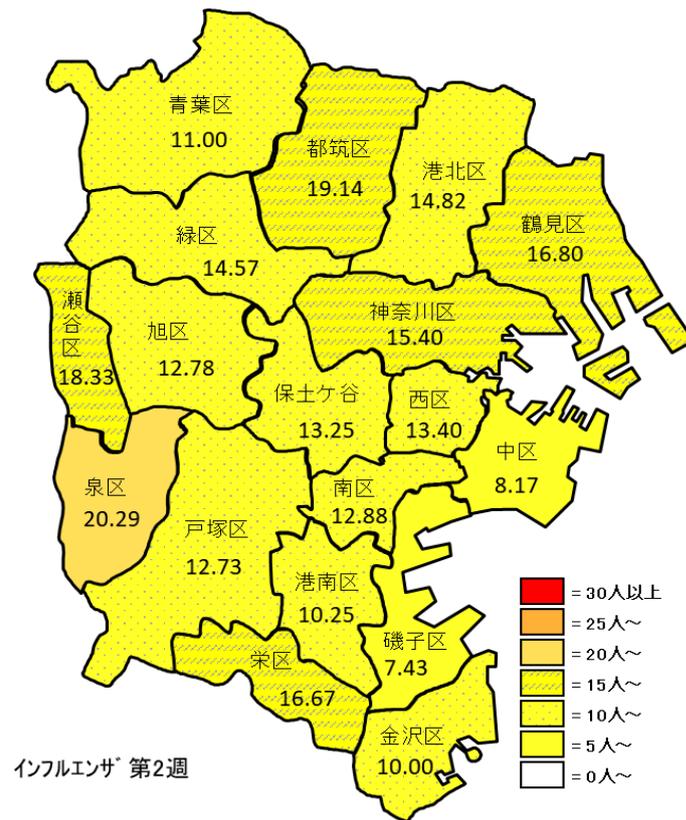
《市全体》  
第52週 23.08※2



《市全体》  
第1週 3.91



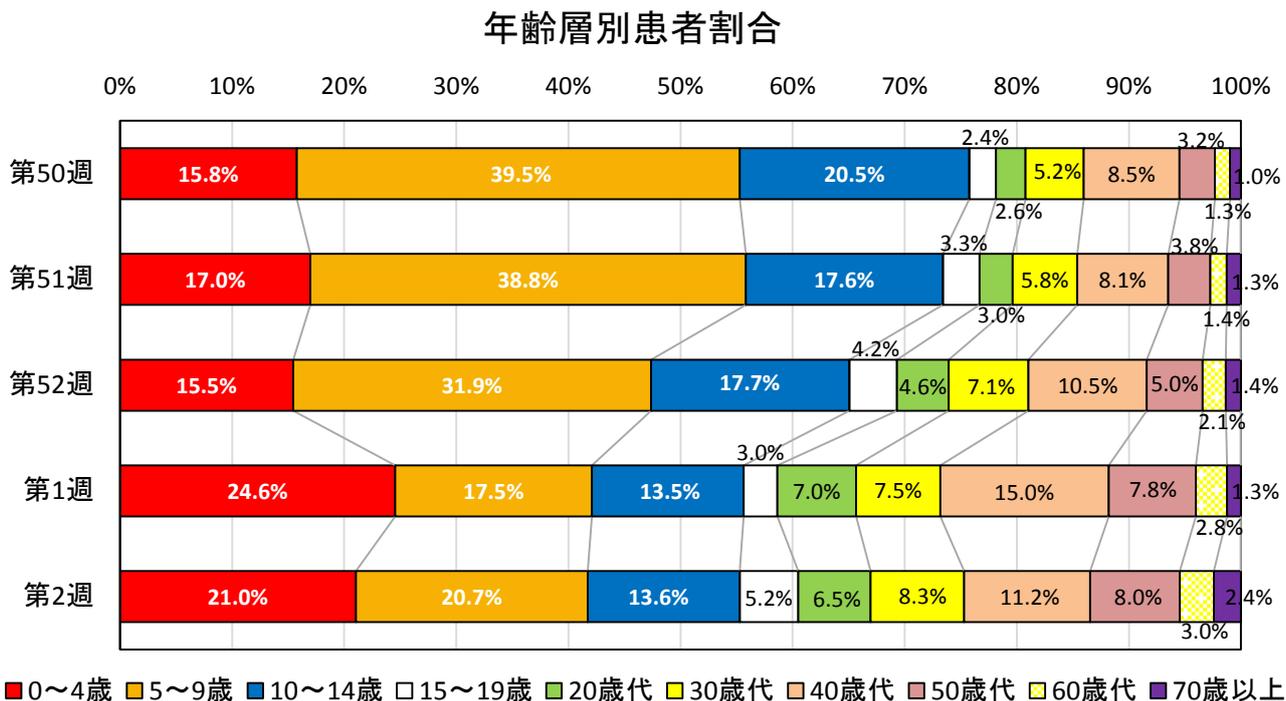
《市全体》  
第2週 13.73



《参考》  
昨シーズン(2018/19年)の流行推移

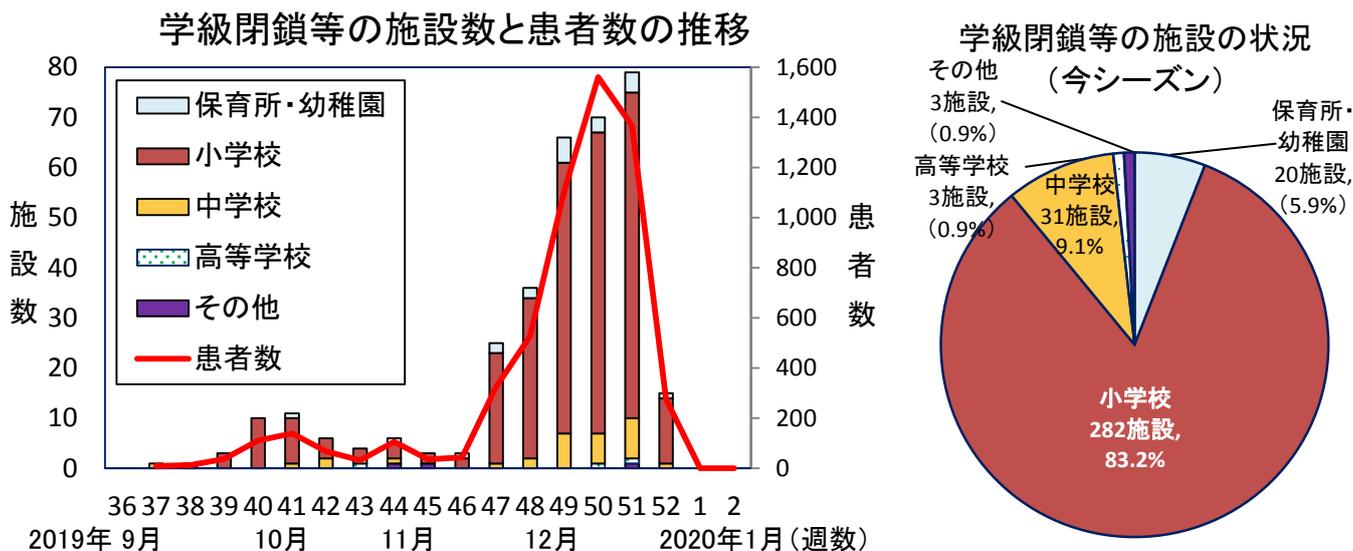
- ・流行の開始【定点あたり1.00超】  
第48週(11月26日~12月2日)
- ・流行注意報発令【定点あたり10.00超】  
第51週(12月17日~23日)
- ・流行警報発令【定点あたり30.00超】  
第2週(1月7日~13日)
- ・流行警報解除【定点あたり10.00未満】  
第7週(2月11日~17日)

**3 年齢層別集計:**第2週の患者年齢構成は、10歳未満が41.7%、10歳から15歳未満が13.6%となっており、15歳未満が全体の55.3%を占めています。



**4 市内学級閉鎖等状況:**第1週、第2週は、学級閉鎖等の報告はありませんでした。

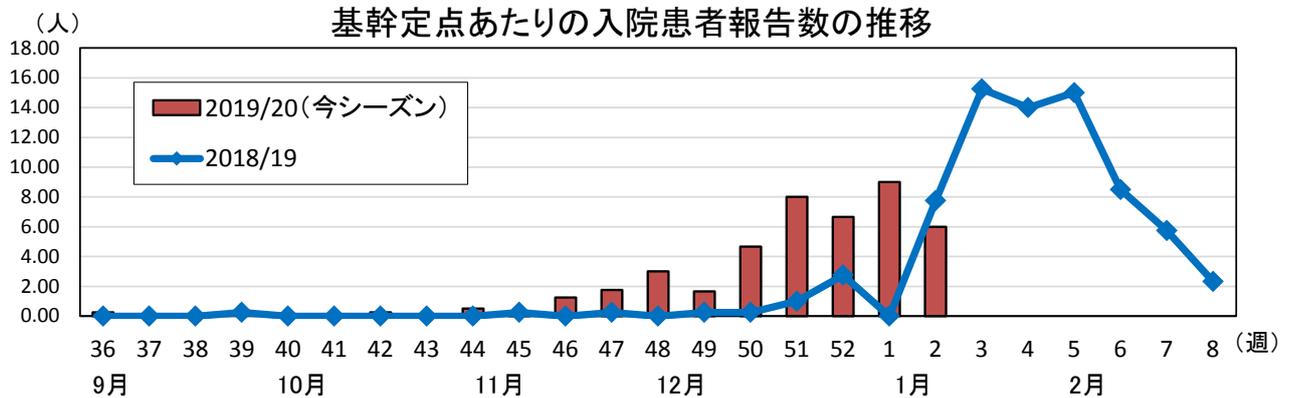
今シーズンの累計では、第2週までに339件の報告があり、報告された患者数は延べ5,754人となっています。報告された施設の割合は、保育所・幼稚園5.9%、小学校83.2%、中学校9.1%、高等学校0.9%、その他0.9%となっています<sup>※2</sup>。冬休みが終わり、今後、報告の増加が予想されます。



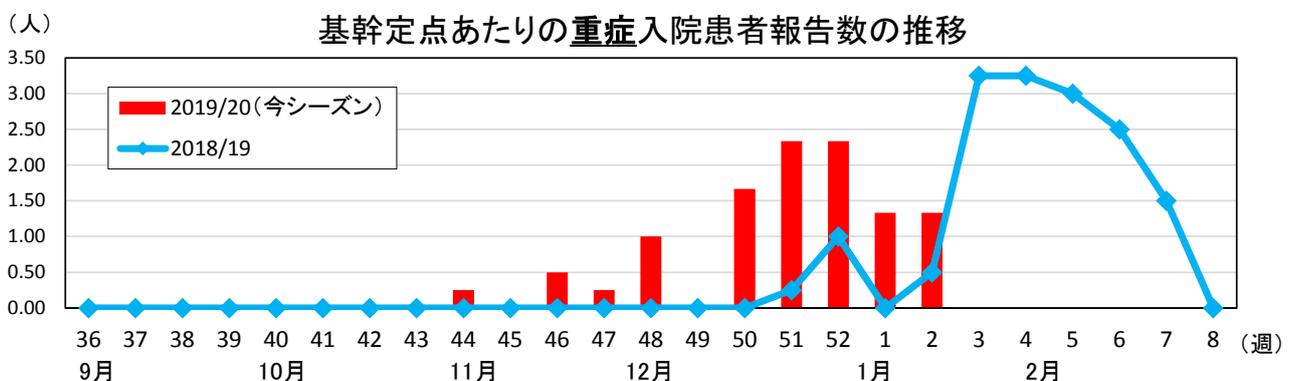
今シーズンの学級閉鎖が報告された18区18施設(各区1施設)のウイルス検査結果では、17施設からAH1pdm、1施設からAH3が分離・検出されています。

**5 入院サーベイランス:市内基幹定点医療機関<sup>※6</sup>における定点あたりのインフルエンザ入院患者は、第1週に9.00人、第2週に6.00人となっています。今シーズンの現在までの年齢別報告は、5歳未満が27.6%、5歳以上10歳未満が11.2%、10歳代が3.7%、20歳代が2.2%、30歳代が0.7%、40歳代が4.5%、50歳代が3.0%、60歳代が7.5%、70歳代が21.6%、80歳以上が17.9%となっています。**

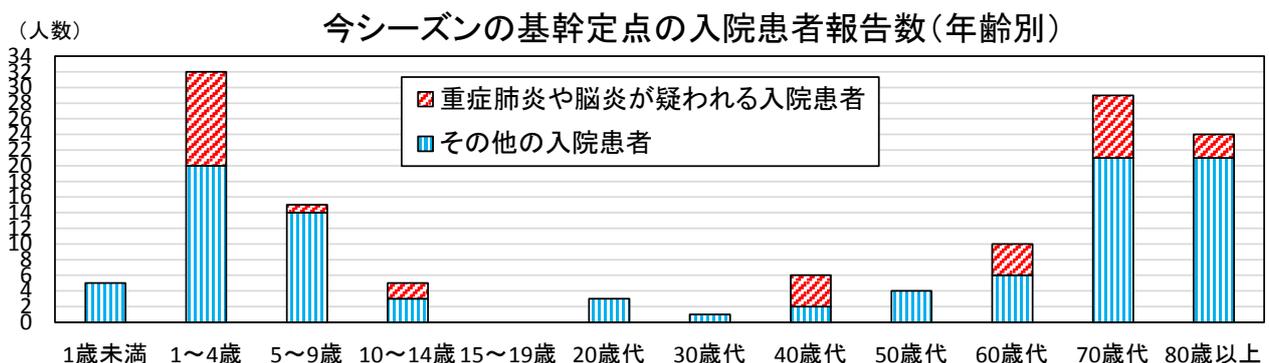
※6 基幹定点:患者を300人以上収容する病院(小児科医療と内科医療を提供しているもの)の中から、地域ごとに指定された医療機関のことで、市内には4つの基幹定点があります。



入院時の診療内容が把握されている事例で、ICU入室、人工呼吸器の使用、頭部CT検査、脳波検査等が実施された重症肺炎や脳炎が疑われる入院患者は、第1週に4人、第2週に4人の報告がありました。重症肺炎や脳炎が疑われる入院患者が、今シーズンは現在までに累計34人が報告されており、今シーズンは昨シーズンの同時期と比較して、報告数が多い状態となっています。

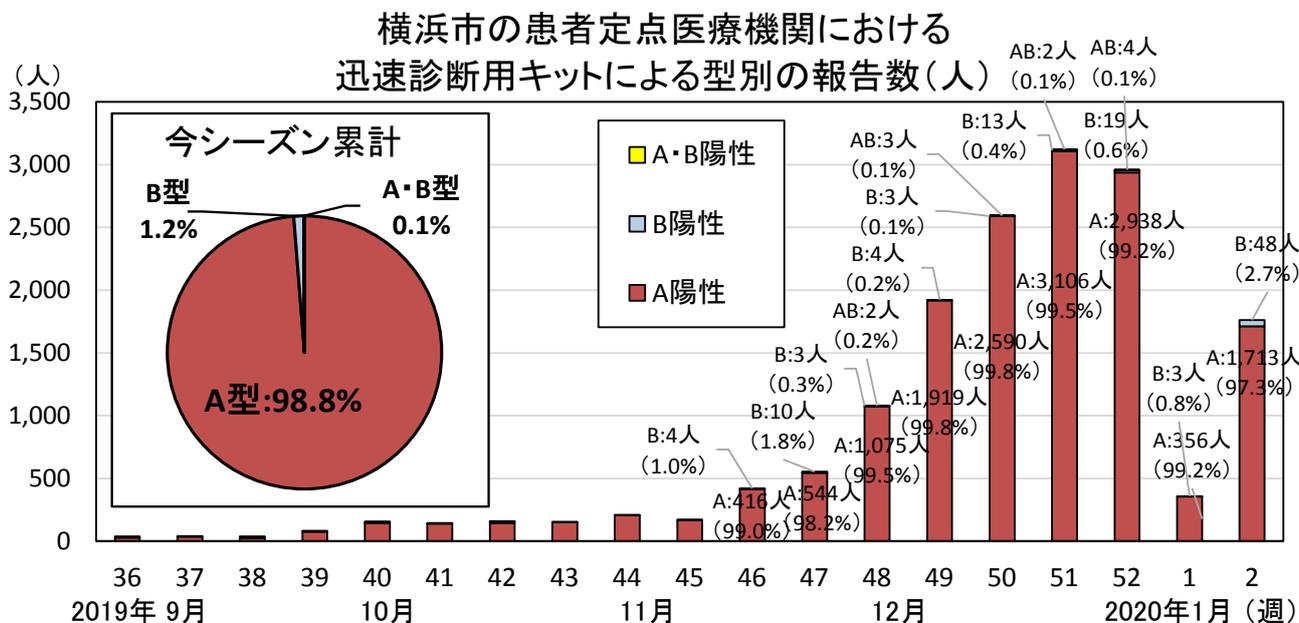


今シーズンの重症肺炎や脳炎が疑われる入院患者の年齢の分布は、5歳未満12人、5歳以上10歳未満1人、10歳以上15歳未満2人、40歳代4人、60歳代4人、70歳代8人、80歳以上3人となっており、小児と高齢者で多く報告されています。



6 インフルエンザ脳症:市内における急性脳炎の発生届のうち、病原体がインフルエンザと疑われる報告は、前号から1月16日までありませんでした。今シーズンの市内の報告は6人(10歳未満4人、10歳代2人)となっています。

7 迅速キット結果:第2週の迅速キットの結果は、A型97.3%、B型2.7%で、A型がほとんどを占めています。今シーズン累計では、A型98.8%、B型1.2%、A・B型ともに陽性0.1%となっています。

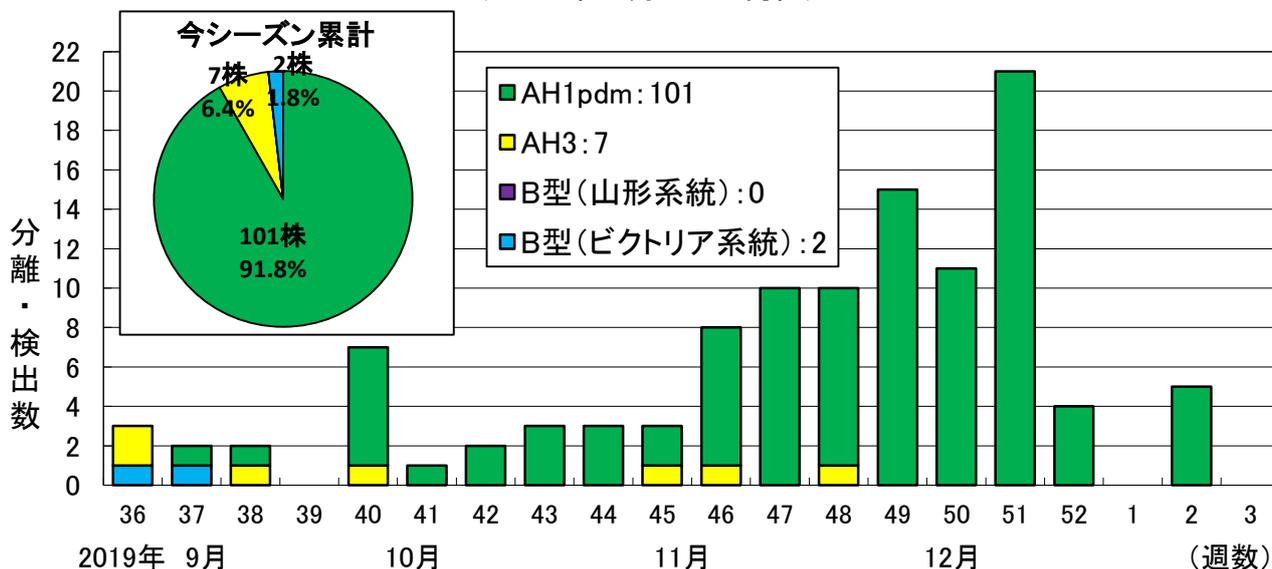


8 市内病原体検出状況:市内では病原体定点<sup>\*7</sup>からAH1pdm(101株)、AH3(7株)、B型(ビクトリア系統)(2株)が分離・検出されており、全国と同様の傾向と考えられます<sup>\*3</sup>。

※7 病原体定点:採取した検体を衛生研究所に送付する医療機関で、市内に17か所あります。うち、インフルエンザについては12か所にて採取されています。

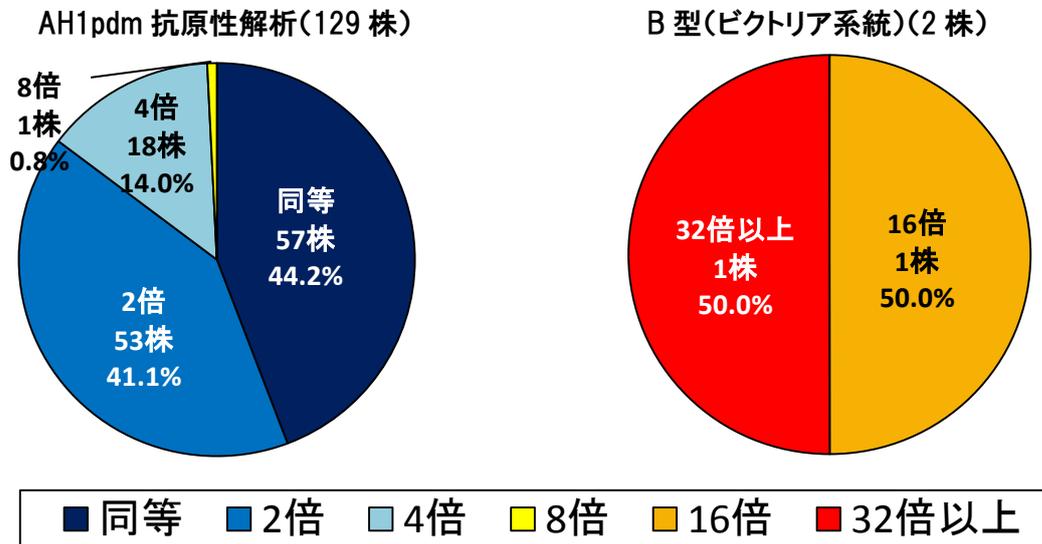
### 市内病原体定点からのインフルエンザウイルス分離・検出状況

(2020年1月15日現在)

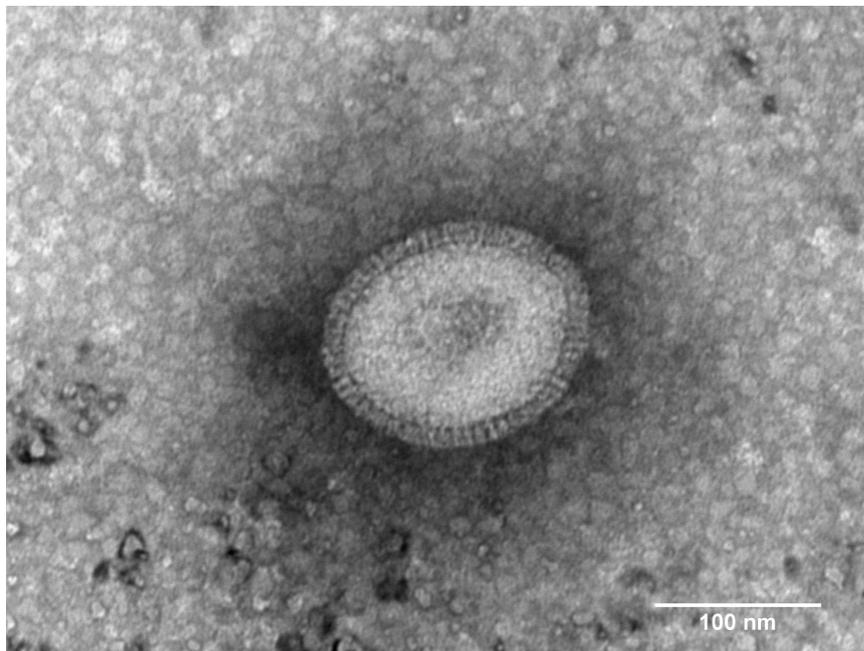


9 分離株の抗原性解析:市内で分離された株(細胞培養した 131 株、1 月 15 日現在)のワクチン株との抗原性解析(HI 試験)を実施しました。ワクチン類似とされているのは 4 倍以内です。あくまでもウサギの血清を使っているため参考値ですが、現在のところ、AH1pdm(129 株)は 99.2%が 4 倍以内、0.8%が 8 倍でした。B 型(ビクトリア系統)(2 株)は 16 倍および 32 倍以上となっています。

(参考値)市内で分離された株の抗原性解析(ウサギ免疫血清)



### インフルエンザウイルスの電子顕微鏡写真(6 万倍)



撮影:  
横浜市衛生研究所

【参考リンク】 近隣自治体の流行状況 ○[神奈川県](#) ○[川崎市](#) ○[東京都](#)  
全国の流行状況 ○[国立感染症研究所](#)

【お問い合わせ先】 横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課 TEL 045 (370) 9237  
横浜市健康福祉局健康安全課 TEL 045 (671) 2445